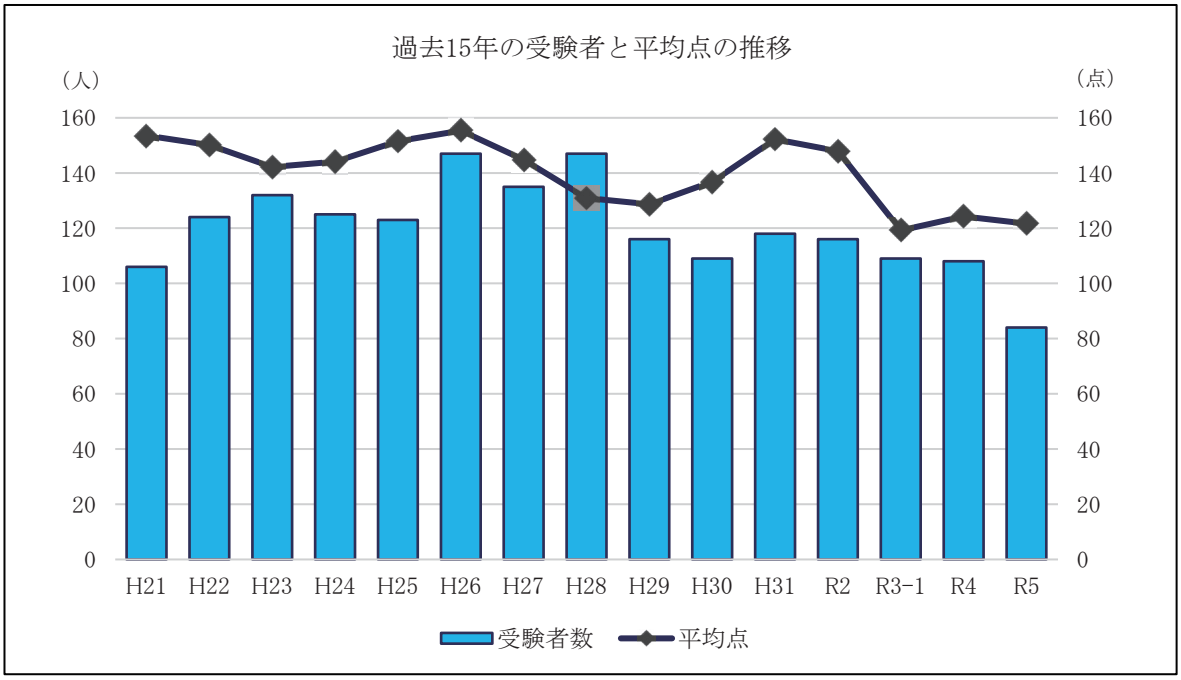
ド　イ　ツ　語

第１　高等学校教科担当教員の意見・評価

１　前　　文

３回目の大学入学共通テストとなる今年度は，「ドイツ語」を82名が受験し，平均点は123.80点であった。平均点は昨年度と同程度であるが，受験者は100名を下回った。これは大学入試センター試験を含め過去15年間で１度もなく，憂慮すべき事態である。



新教育課程導入は現高校１年生からであり，今年度受験者数が減少したことに驚いている。理由の１つに，ドイツ語学習歴が認められ，一般選抜試験より前に志望校に合格している高校生が増えていることが挙げられる。また，現在，全ての大学でドイツ語での受験ができるわけではなく，受験科目「ドイツ語」が選択できる外部模試もなく，「赤本」のような過去問も容易に手に入らない。在籍している高校にドイツ語受験用の授業や補習等がなければ受験対策ができず，高校生がドイツ語を受験科目とすることを躊躇するのは想像がつく。このような状況では，共通テストのドイツ語受験者が増える見込みは余りないだろう。

今回も準拠すべき基準が明確になっていないため，共通テスト「ドイツ語」の出題方針や出題範囲を，昨年度と同様に，高校で教える立場として受験者を英語に比較的近い環境で「高校で３年程度ドイツ語を継続して学んできた」と仮定し，評価したい。

しかし，日本では英語に比較的近い環境で３年間継続してドイツ語を学ぶ高校はごく僅かであり，共通テスト「ドイツ語」の受験者像の仮定は現状と合っていないのかもしれない。

また，数年前から高校生に見られる傾向ではあるが，英語を読むときのように，大意を把握することは得意でも，単語ごとのアクセントや正確な文法知識など細かい部分まで気を配ることができなくなっている。

なお，評価に当たっては，14ページに記載の８つの観点により，総合的に検討を行った。

２　内　容・範　囲

全体の構成は大問が７つあり，設問数は昨年度と同じく51問，文法，会話，広告，物語，特定のテーマ下での長文など，受験者には幅広い学習が求められる出題構成である。最近の，過剰に文法用語の記載を避ける出題方式に疑問が残る。

第１問　発音やアクセント，動詞や複数形のつくり方など基本的な知識を問う出題。

問１　アクセントのある母音の長短を問う出題。発音の規則から類推は可能であるが，受験者が語彙を覚える際に，単語１つ１つの発音まで意識できるかが大切である。個々の発音に対してどれだけ注意を払えるかは，教える側の意識にも影響されるだろう。

問２　つづりと発音の規則を問う出題。文中で使われている語の中にあるstがどのように発音されるのかが問われている。初の出題方式ではあるが特に問題はない。

問３　職業とその職業に関連する学問や職場を表す語のアクセントを区別する出題。語の終わり方でアクセントの位置が変わることが分かるか。英語の発音とは異なる。

問４　不規則動詞の人称変化を問う基本的な出題。③schlagenは，動詞の不規則変化を学ぶ際に最近の教科書では余り見かけないが，vorschlagenは目にしたことがあると思われる。

問５　不規則な変化をする動詞のうち，不定形の幹母音「ei」が過去基本形になった時に「ie」に変化する動詞を選ぶ出題。正答②bleibenはよく目にする動詞。

問６　複数形での変化語尾を問う出題。選択肢は単数形ではよく目にするが，正答①Gläserなど，教材によっては複数形での取り扱いが少ないものも含まれる。

問７　３つのテーマ，Ａ：PC周辺機器，Ｂ：飲料，Ｃ：スポーツに属さない語を探す。①Fliegeはやや難の語だが，消去法で正答可能か。

第２問　文法的知識の正確性が問われている。格支配，関係代名詞，接続法など広範囲に出題されている。文法事項を着実に学んだ受験者であれば正答を選ぶことができる。文法が苦手な受験者への配慮を語彙や出題に感じる。

問１　jn＋um＋bittenの格支配を問う出題。所有冠詞の格支配も学んでほしい。

問２　jm＋folgenの格支配を問う出題。３格の代名詞は正答②unsだけ。

問３　１格の関係代名詞を答える。教科書等の例文ではFilmが４格として扱われているのをよく見るからか，正答率は伸びていない。

問４　文の意味から適切な前置詞①seitを選ぶ。期間を表す基本的な前置詞。Jahrenが複数形３格となっていることも助けとなる。

問５　使役lassenの目的格③michを選ぶ出題。lassenを使った表現を最近の教科書では目にすることが少ない。目にしたことはあっても，用法まで学んでいる受験者は少ない。類推することも，知識がないと難しいか。

問６　sein支配の動詞を使った現在完了形に関する基本的な出題。ankommenは分離動詞ではあるが，基本的な動詞と言っていいだろう。

問７　zur Welt kommen「生まれる」という熟語的な表現を選ぶ出題。最近の教科書では余り目にしない。

問８　接続法を使った表現als ob「まるで～かのように」を問う出題。obだけを問うことで難度が下がる。

第３問　副文や相関語句など比較的複雑な文構造を持つ文を，与えられた語を空所に当てはめて完成させる出題。不要な選択肢が１つあるが，問われている箇所に配慮を感じる。唯一受験者が文を構成する出題であり，表現力を問うことも可能である。

問１　従属接続詞obwohlが先にあり，主文が後ろにある文の並び替えからの出題。２つとも動詞の位置が問われているが，jedeに続く名詞は単数形であることに気付き，動詞の人称変化に影響することまで受験者は意識してほしい。

問２　話法の助動詞を用いた定動詞の位置と，ohne…zu～「～することなしに」不定詞句との並び替えだが，前置詞vonが「～の」として使っていることが分かるか。

問３　相関語句nicht…sondern～の文だと分かれば，選択肢を並べ替えることはさほど難しくはない。

問４　分詞句を含む主語から始まる受動態となるよう選択肢を並び替える。分詞句を長文の一部として読むことはできるのかもしれないが，正答できた受験者は少なかった。zurückgegebenenが過去分詞ではなく形容詞であることに気付かない，あるいは，bringenを使い未来形の文を作ろうとした可能性もあり，受験者にとって迷う要素が多い。やや難。

第４問　一連の比較的長い対話等を読み，設問に答える。「衣類交換マーケット」の開催経緯についてAnneとその兄のWernerが行う対話から始まり，開催準備中に行われるSarahとAnneの対話の間に，Anneと兄のチャットが挿入される構成になっている。近年の教科書では衣類がテーマとなることも多く，使用語彙もそこまで難しくはない。場面の切り替えがはっきりしており，昨年度のような読みにくい印象は受けなかった。また，対話の冒頭で状況・場面について日本語で説明がなされているので，配慮を感じる。全体を見渡して解く出題が少なかった。

問１　（diese）Idee kommenが「（この）アイディアが浮かぶ」だと分かり，対話のテーマが衣類マーケットの話題だと分かれば正答②を選ぶのは難しくはない。

問２　下線部㉕のDasは直前のAnneのセリフを指している。Anneのセリフにあるkaum getragen「ほとんど着られない」が選ぶ際の重要な表現である。

問３　[26]のAnneのセリフに適切な表現を入れるために，[26]の直前にaberがあることから，günstigとは反対の否定的な表現を選ぶことができる。加えて，für die Umwelt「環境にとっては」とあることから，環境と結びついて用いられる③problematischを選ぶ。

問４　Wohin sollen die Jacken?と本動詞を用いない形の疑問文から，Jackenを移動させる場所が問われていることが分かるか。正答は，[27]の直後のセリフでその物がまだ会場にあることから，移動を表すhängen＋前置詞４格を使った表現①となる。

問５　衣類交換マーケットのテーマから外れていない表現を選ぶ。①は現在完了形であり，まだマーケットの準備中であることから選択肢から外れる。正答以外どれも場面にそぐわない，練られた選択肢。

問６　衣服の特徴を示す表現であるgrau，Knöpfen，eng Taschenのうち，grauと前置詞ohneを伴ったohne Taschenの２つが分かれば良い。イラストが白黒でしか印刷できないのに，色について出題されたことに驚いた。

問７　ポスターから誤りを探す出題。前置詞stattの意味のとり方が分かるか。Klamottenは選択肢として出題されると，やや難しく感じる。

問８　問５が分かれば，正答④を選択するのは難しくはない。

第５問　兄弟であるKim，Chris，Samiの３人が親の銀婚式に何を贈るか相談し，後にインターネットで検索した情報を見ながら，更に議論する構成となっている。会話と案内広告から必要な情報を探す。

問１　下線部㉜の前に値段を言っており，それに対する反応の言い換えを選ぶ。das geht「（物事が）可能である」が分からないと様々な意味にとる可能性があり，迷うことになる。relativ「比較的に」という表現はやや難しい表現。gehenには様々な意味があるが，知ってほしい表現。

問２　33 の直前のpro Personで一人当たりが支払う金額を言おうとしていることが分かるか。エスプレッソマシーンの価格250ユーロを，会話を行っている人数３で割り算すると，一人当たりüber achtzig「80ユーロ以上」となることが分かれば良い。

問３　34 の後にSpaに対し高評価をしていることが分かるか。直後のKimがaberでChrisの発言を否定し，高いと言っていることも理解を助ける。正答②のaussehen「～のように見える」はよく会話で使われる分離動詞。

問４　Spaの広告文から必要な情報を探す出題。inklusiveが「～込み」であることが分かれるか。

問５　36 の前のSamiのセリフではmüssen selbst hinfahrenと，両親が自力で湖へ行かなければいけないことをやや否定的に捉えている。36 の後ろで母親が運転好きなことが分かるため，前のセリフを否定する表現を選ぶ。正答④はやや口語的な表現ではあるが，消去法で判断可能である。他の選択肢もよく練られている。

問６　これまでの会話，広告の情報から判断する。問１～問５が分かった受験者であれば，①～③を理解することは難しくはない。④は 36 より後に言っている。

第６問　留学体験レポートからの出題。過去形が用いられているものの語が制限されている。題材が高校生の体験のため，昨年度より親しみやすい印象を受けた。

問１　選択肢の出来事を，レポート内の出現順ではなく，実際に起こった順に並べ替える。彼女が留学をした時期を３～４行目の文を起点に考える。いつ来たのかが分からず，夏に来たと解釈してしまった受験者もいたようだ。概要を捉えるのが得意な高校生にとって，その１文を探すことができたかが鍵となるわけだが，全出題の中で１番低い約20％の受験者しか正答にたどり着けなかった。

問２　適切な絵を選ぶ出題。４段落目の「ホームステイ先で食べた焼きそば」についての絵を選択する。食べた場所と，料理が読み取れれば，絵も迷う要素は少ない。

問３　第３段落目の部活動での取り組みが分かり，選択肢にある時の表現と頻度を表す副詞が整理できているか。④vor dem Unterricht「授業の前」には朝の時間帯，morgens frühが含まれていることに気付けるか。

問４　第１段落目の最後の行の言い換え。他の選択肢には本文と逆のことが書いてある。本文中のgetroffenと③kennengelerntが同じ意味として使われている。

問５　ここまでの設問を苦労なく解けた受験者には難しくはない。②と⑥が正答であるが，schüchternという動詞はやや難しく，レポートの中のユーリアの行動が必ずしも「内向的」とはとることができないのではないか。

第７問　『クララとお日さま』の書評からの出題。科学的・近未来的な題材であっても，受験者は恐らくAIの存在は既に知っていることから，大きな戸惑いは感じなかったのではないか。しかし，英語からの類推ができる受験者とそうでない者とで理解度に差が生まれると感じた。人工知能（KI）が注で示されており配慮されているものの，抽象概念を表す語彙も多く，難しいと感じる受験者もいたかもしれない。昨年度と同様に問１～５はドイツ語での出題である。局所的に理解できているかを確認する出題が多い。

問１　第１段落７行目から始まる文の言い換えを選ぶ。本文のeinschätzenと正答②beobachtenが同じ様な意味で使われていることが分かるか。設問の従属接続詞indemはやや難しい。

問２　第２段落２行目に書かれているwie Maschinen funktionieren würdenの言い換え③を選ぶ。

問３　第２段落６行目からの文を理解する。本文がIhr fehlt「彼女に欠けているのは」で始まることから，ロボットには何かが欠けており，人間と同じではないことを読み取る。また本文中のKomplexität，Wahrnehmungや選択肢のkomplex，empfinden，ausführenなどは難しい語彙であり，

その中でも正答できた受験者はよく読みこみ，正答を選べたと感じた。

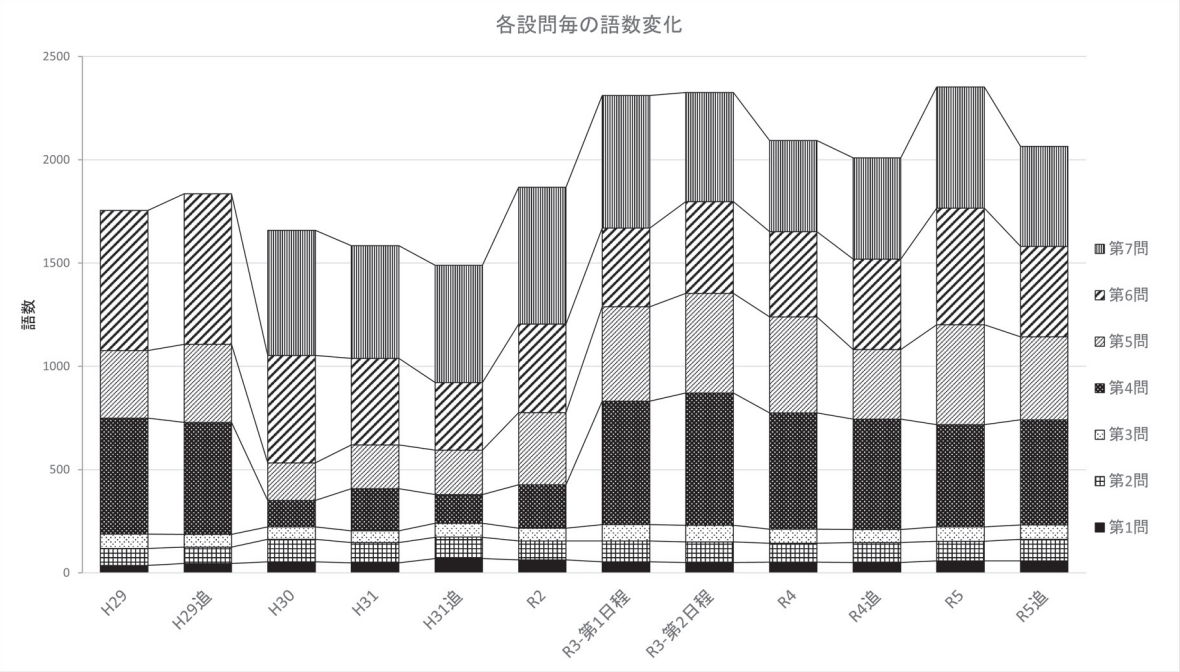
問４　第３段落３行目からの文を理解する。最後の, dass sie Emotionen hatが正答②と同じ意味となる。selbstverständlichはやや難しい表現であるが，以前よりコミュニケーションベースの教科書で目にするようになった。

問５，問６　第４段落６行目からの文を理解すれば，問５及び問６の正答を選ぶことができる。

問７　正答①以外は本文とは異なること，又は，書かれていないことであるため，迷う要素は少ない。消去法でも判断可能か。

３　分　量・程　度

昨年度の共通テストより１割程度使用語数が増え，第１回共通テストと同程度になったが，読みにくさや，語数が特別に増えた印象はない。



４　表　現・形　式

昨年度指摘したような，対話の途中や場面が転換時に図やチャットが挿入されて文の読みづらさが生じるということはなかった。昨年度と同様の指摘となるが，場面転換時の状況説明文には，大問によって日本語又はドイツ語のいずれかが使用されているが，どちらか一方に統一しても良いのではないだろうか。

語彙や表現に一定の配慮を感じるが，教科書によって掲載に差がある可能性の高い語，例えば，religiös（昨年度に引き続き出題），güstigやengなどが設問にかかわる形で複数回使われていた。

共通テスト「ドイツ語」にはリスニングの設定がなく，受験者にアクセントや母音の長短への意識を持たせるためにも，アクセントなど発音に関する出題を維持してほしい。「思考力・判断力・表現力等」を問うことを共通テストでは意識しているのかもしれないが，記述式の出題がない中で，それらの能力を問うには限界があると感じている。特に，長文からの出題では全体を見渡すのではなく，設問の前後が分かれば解答できる出題が昨年度より多く感じた。

５　ま　と　め

令和７年度試験までは，共通テストに英語以外の外国語が残ることが決まり安堵しているが，それ以降の実施は保証されていない。３年間継続してドイツ語を学ぶことのできる環境がいる生徒や教師は，常に，大学入試あるいは，共通テストに英語以外の外国語があるかないかについて不安を抱き，翻弄され続けている。

前文でも述べたが，日本では３年間ドイツ語の学習が継続できる環境を整えている高校はごく僅かである。高校のドイツ語教育に携わり現場の状況を知る者として，共通テスト「ドイツ語」を英語に近い環境で「高校で３年程度ドイツ語を継続して学んできた」ことを基準として評価することに迷いを感じている。

この一年，ウクライナ情勢に関するニュースでは，日本に避難してきているウクライナの方々が英語で話されている姿をよく見聞きするが，彼らに本当に寄り添っているのか疑問に感じることがある。英語以外の外国語を学んでいると，英語圏以外の人々が日本人と英語でやり取りする姿を見て母語ではないことに気付き，疑問を感じやすいだろう。

英語の非母語話者同士が英語で会話をする姿に違和感を覚えたり，英語のみを通して情報を得る危険性に気付いたりするきっかけの１つが，英語以外の外国語に触れることだと考える。英語以外の外国語に高校生から触れ，様々なことに気付き，視野を広げることは，答えのない課題に柔軟に対応しうる力となるのではないか。英語以外の外国語教育が一向に広まらない日本はその姿勢を持とうとしているのだろうか。

幾つかの観点から意見を述べたが，英語とは違いドイツ語の学習環境は多種多様であり一般化することができない。その中で，高校の現状を鑑みて，英語以外の外国語学習に対して意欲的に取り組む生徒の実力が測れるような「ドイツ語」の問題作成に，多くの時間と労力を割いてくださっている問題作成委員の方々に心から感謝申し上げる。